



Title	Renal synthesis of urokinase type-plasminogen activator, its receptor, and plasminogen activator inhibitor-1 in diabetic nephropathy in rats: Modulation by angiotensin converting enzyme inhibitor
Author(s)	宮崎, 健一
Citation	(2005-01-31)
Issue Date	2005-01-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/7028">http://hdl.handle.net/10069/7028</a>
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-27T21:48:59Z

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博(医)乙第1730号	氏名	宮崎健一
論文審査担当者		主査教授	田口 尚
		副査教授	金武 洋
		副査教授	佐藤 伸一
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価 本研究は、糖尿病性腎症における細胞外基質(ECM)の生成と分解に与えるurokinase type-plasminogen activator (uPA) と、そのレセプター(uPAR)、および plasminogen activator inhibitor-1(PAI-1)の影響について検討を行っている。また、アンギオテンシン変換酵素阻害薬(ACEI)の腎系球体におけるコラーゲン産生の抑制効果についても検討したものであり、研究の目的は十分に妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価 ストレプトゾトシン(STZ)誘発糖尿病ラットの腎におけるIV型コラーゲンの沈着を経時的に計測し、PAI-1, uPA, および uPAR の蛋白と mRNA 発現を免疫染色と in situ hybridization にて観察した。更に、ACEI である benazepril 投与時における発現と比較検討したものであり、研究手法は妥当である。</p> <p>3. 解析・考察の評価 糖尿病ラットにおける系球体内の PAI-1, uPA, および uPAR の mRNA 発現を明らかにした。benazepril によりこれらの mRNA と IV 型コラーゲン沈着が減弱したことは糖尿病性腎症において ACEI 使用の有用性を支持するものであり、PAI-1・PA のプラスミンカスケード因子が ECM の代謝にも関係していることを示唆しており、結果の解析や考察も高く評価できる。</p> <p>以上のように本論文は糖尿病性腎症の進展における線維化とその抑制機構の解明に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと。